

喬木村社会教育委員会の 活動について



喬木村社会教育委員会

たかぎむら

喬木村の概要

明治8年に5か村が合併して発足。長野県の南部（南信州）に位置し、伊那谷を流れる天竜川が悠久の流れの中で形作った日本最大規模と言われる河岸段丘の上にある。近接する飯田市にはリニア中央新幹線長野県駅設置が決定し、今後どのような変化と発展を遂げていくか楽しみな地域でもあります。



人口	6,133人
男性	3,018人
女性	3,115人

世帯数	2,130世帯
	(R3. 10. 31現在)

喬木村の社会教育委員会

○委員構成：委員数 9名（うち男6名女3名）

男女共同参画目標値の女性委員3割を達成

○職務：教育委員会からの諮問を受け答申

平成21年 子どもの育ちを支える取り組み

- ・ノーテレビノーゲームへの取り組み
- ・子どもの外遊びや安心して遊べる環境について
- ・家庭教育を担う親に対する啓発・教育について

平成25年 「全村読書の日」の充実と実践について

子育て憲章制定
につながる

○兼務する職務

公民館運営審議委員・椋鳩十記念館図書館運営委員・子ども学遊館運営委員・子ども共育会議委員・男女共同会議委員・社会福祉協議会評議委員 等



たかぎ子育て憲章

健やかに伸びて喬木になるように みんなではぐくむ未来の芽



我が家の一条を家族で決めましょう

早寝早起き朝ごはん家庭がつくる生活リズム

親子で読書二十分棕の想いを受け継ごう

テレビやゲームは時間を決めて食卓囲んで楽しい会話

親子の約束互いに守り信頼・絆を深めよう

ルールとマナーと思いやり手本を示してはぐくもう

豊かな自然外遊び仲間と育つ心と体

地域の子どもは我が家の子ほめて叱って見守って

いつも心に感謝の気持ち言葉に出そう「ありがとう」

元気なあいさつ心が通う明るい返事が心を結ぶ

喬木村

健やかに伸びて喬木になるように みんなではぐくむ未来の芽

喬木村は、「幽谷ユウコクより出でて喬木キョウボクに遷る」(詩経)より命名され「相和し助け合いながら成長していく村の姿を表す」この村名に誇りと責任を持ちながら、130余年の歴史と伝統を重ねて来ました。

また本村は、「生きること」の尊さや「愛」の美しさを語り続け、「母と子の20分間読書運動」も提唱された文学者「棕鳩十先生」の故郷でもあります。

先人の思いを受け継ぎつつ、かけがえのない社会の宝である子どもたちが、豊かな自然の中で、大きな愛情や温かなまなざしに包まれて、心身共に健やかに成長することを願い、村民総参加による子育ての行動指針として、ここに「たかぎ子育て憲章」を制定します。

平成23年1月制定

●たかぎ子育て憲章

- 1 元気なあいさつ心が通う**
明るい返事が心を結ぶ

元気で明るいあいさつや返事は、互いの心を通わせ、良い人間関係を築きます。大人が手本を示しましょう。
- 2 いつも心に感謝の気持ち**
言葉に出そう「ありがとう」

人は誰でも助け合い、支え合って生きています。家族や友達、すべての人に感謝の気持ちを伝えましょう。言葉に出して伝えることで、互いに笑顔になり、人から人へ思いやりの心が広がります。
- 3 地域の子どもは我が家の子**
ほめて叱って見守って

悪いことをすると叱る怖いおじさん、ちょっとした事でも褒めてくれる優しいおばさんになって、自分のこどもや孫と接するように、声をかけ温かく見守る、そんな地域風土をみんなでつくりましょう。
- 4 豊かな自然 外遊び**
仲間と育つ心と体

自然の中を走り回る事で丈夫な体になり、外遊びや群れ遊びをとおして、こども社会のルールを覚え、我慢することや助け合うことを学びます。遊びを通してたくさんの経験をし、心は育って行きます。
- 5 ルールとマナーと思いやり**
手本を示してはぐくもう

規則をきちんと守る、人に不快な思いをさせない、相手の立場に立って考えるなど、人として基本を教えることは親の努めです。親は言葉だけでは出来ません。生活の中で折りに触れ、行動で手本を示しましょう。
- 6 親子の約束互いに守り**
信頼・絆を深めよう

「親は信じて見守り、子は何でも相談する」そんな深い信頼や強い絆をつくるために、日常交わされる小さな約束でも、丁寧に守りましょう。
- 7 テレビやゲームは時間を決めて**
食卓囲んで楽しい会話

長い時間テレビを見たりゲームをすると、子どもの脳の発達に良くない影響があります。時間は家族で決めて、食卓を囲んで話をするなど、家族団らん時間を大事にしましょう。
- 8 親子で読書20分**
棕の想いを受け継ごう

棕鳩十先生は、母と子の20分間読書を広めました。読書は豊かな心をはぐくみ、言葉を増やし、考える力や想像力を育てます。親子で本に親しみましょう。
- 9 早寝早起き朝ごはん**
家庭がつくる生活リズム

現代社会では、生活リズムが夜型になり、睡眠時間が短くなっています。早寝早起き、バランスの良い食事で、元気で活力みなぎる1日のスタートを切りましょう。
- 10**

我が家の1条を家族で決めましょう

棕文学の里 喬木村



ペリー&ゴー

○社会教育委員会の活動方針

「コミュニティの中で学び 磨き 伝える世代間交流から人づくり、地域づくりの為に行動する社会教育委員になろう！」

○活動理念

「考動する(考えて行動する)社会教育委員会」

そのために、必ず年度当初に年間計画を立てることとする

P D C A のスパイラルで活動
(計画)(実行)(確認)(行動)



活動事例①

あいさつ運動

○7月から3月まで 隔月1回、小学校2校、中学校、保育園3園において子ども共育会議が中心となってあいさつ運動を行う。



喬木第一小学校



喬木第二小学校



喬木中学校



喬木中央保育園



活動事例②

棕鳩十記念館・記念図書館との連携

○棕文学の郷「たかぎ」を地域に根付かせ、棕鳩十作品を親しむため
棕鳩十記念館・記念図書館主催の読書感想文コンクールやタヤけ祭
等の役員として参加・協力を行う



イベント打ち合わせの様子



第34回読書感想文コンクール表彰式



活動事例③ 武田信玄狼煙上げ

○豊かな自然の中で心と体を鍛え、地域の歴史や文化を知ってもらうことを目的に、浪漫ある武田信玄狼煙上げリレーへの参加・協力行う



令和3年度は富田地区城山、加々須地区茶臼山の2か所で実施



活動事例④

令和元年実施

おとまり体験事業

○きっかけ

委員会にて通学合宿に取り組もうとの意見から実施について検討

しかし、宿泊し通学するとなると現有の施設では実施が難しいと判断

では、通学合宿ではなく一泊二日の宿泊体験をやってみよう



最近の子どもたちは、保育園や学校での過程で宿泊体験が乏しいこともあり、子どもの自主性を育てるために「おとまり体験」を実施することとなった

平成28年度より実施し、毎年恒例のイベントとなっている



日程

1日目

- 12:45 はじまりの会
- 13:00 ペットボトルロケット工作教室
- 15:30 グループ分け
買い物 予算2,500円
夕食準備(カレー・サラダ)
- 18:00 芝グラウンドで夕食・片付け
- 19:00 お楽しみ会
 - ・夏の星空観察
 - ・花火大会
- 21:00 ・読み聞かせ、就寝

2日目

- 6:00 起床
 - 6:30 ラジオ体操
 - 7:00 朝食準備
 - 7:30 朝食・片付け
 - 8:00 感想文
 - 9:00 おわりの会
- 3年生～6年生
42名が参加
- 社会教育委員は
見守り



飯田OIDE長姫高校による指導による工作教室





夕食作り(カレーやサラダを作って食べました。)



星の観察・読み聞かせの様子





朝はみんなでラジオ体操



仲良く一緒に朝ご飯



終わりの会



コロナ禍のため、令和2・3年度は「おとまり体験」を中止



学校教育以外でも、こどもの学びの場を提供できればと考え、

文部科学省GIGAスクール 宇宙飛行士との連携教育

「君も宇宙へ」

を実施



活動事例⑤

文部科学省GIGAスクール

「君も宇宙へ」

国際宇宙ステーションにいる星出宇宙飛行士にリアルタイムで宇宙について教わりました



【文部科学省GIGAスクール特別講座】

- ・全国的に開催
- ・村では希望した小学生が参加
- ・JAXA(宇宙航空研究開発機構)配信の動画を見るなどして、宇宙に関して学びました





村澤先生から宇宙の基礎知識を学習



二人の宇宙飛行士から
宇宙での食事について解説・実演
いただきました



小中学生を対象に呼びかけを行い、
36名の児童・生徒が参加



過去活動事例

平成29年～30年度実施

学社連携ICT事業「タブレット写真教室」

○きっかけ

喬木村の小中学校はICT活用事業による遠隔合同授業をおこなっている。

○目的

- 学校と地域とがタブレットを使った写真教室を通じて交流を図ると同時に学校の様子を地域の方々に知っていただく機会とし、「開かれた学校」を目指す。
- 地域で活動しているたかぎカメラクラブを知る
- 地域の人材が学校に入りカメラ撮影指導することによる連携と地域一般住民との交流
- ICT遠隔を活用した第一、第二小学校6年生の交流





第一小教室の様子が映し出されている
電子黒板



タブレットを操作する子ども達



ベストショットがとれたかな？



指導をうける子ども達





最新のICT技術を活用した教育と地域の人材が持つカメラ技術を合わせて学ぶとともに、子どもと大人が今回の異世代交流事業をとおして、お互い顔を覚え、技術を伝え活用することができた。



現在はカメラクラブが中心となり、小学校で年6回程度の授業を行っている



活動の成果

学校、家庭だけでは学ぶことができない「**体験**」をすることで、知識や経験を積むだけでなく、その活動の中で地域・人との繋がりを広げている。

また、子どもの「**学び**」だけでなく、子どもと一緒に活動に関わることで、**大人の新たな学び**や成長にもつながっている。



喬木村社会教育委員会の 目指す「すがた」

- 家庭、学校、地域をつなぐパイプ役
- 家庭、地域の学習力向上に関して積極的に貢献する
- 住民の意向と行政や施策の運営に反映させるパイプ役
- 地域社会教育に関するネットワークづくりに関わる

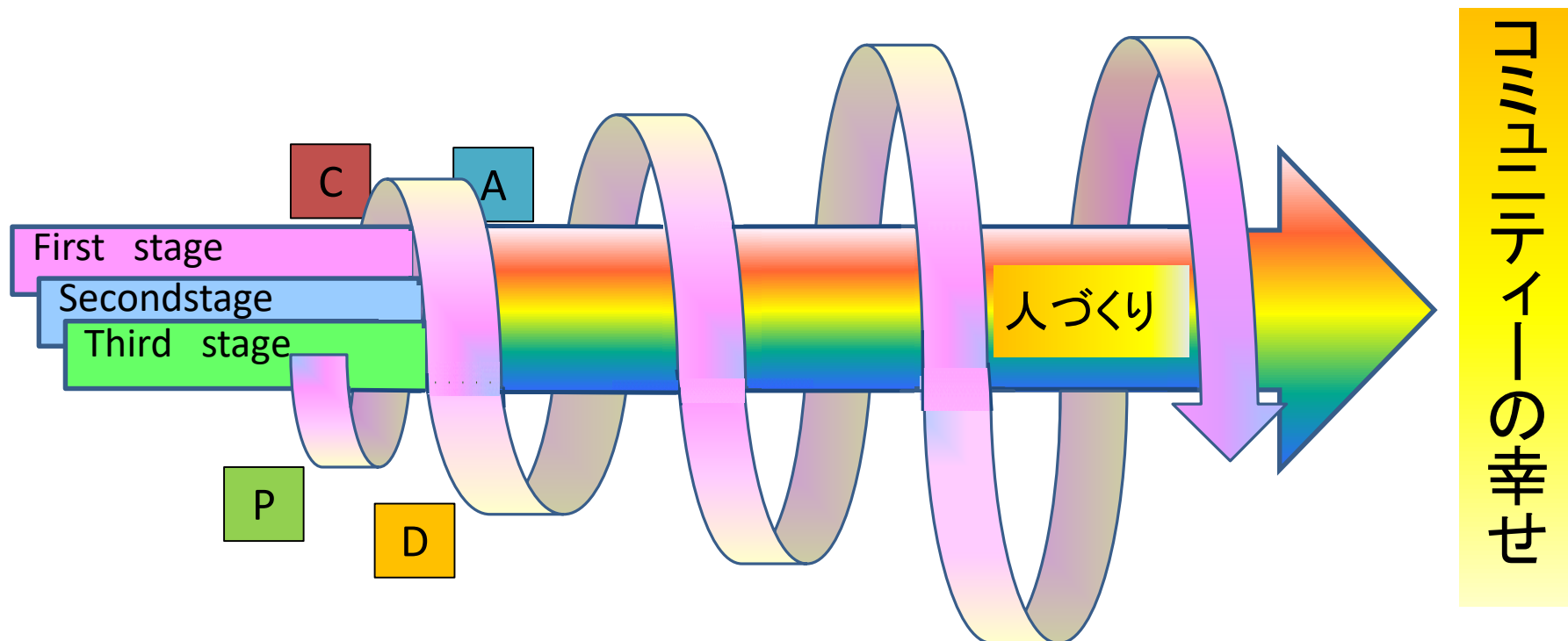


＜積極的なコミュニティー(絆)づくり＞

社会教育委員がかかわらずとも、自然に異世代交流が
でき、学びあえるシステムづくり、社会を目指す。

ステージ間の役割

世代間交流のスパイラルで



First stage 生まれてから社会に出るまで 社会人としての基盤を学べる喜びを感じる世代

Second stage 社会人としてファーストステージで学んできた事を実践し、自己を高める世代

Third stage リタイアしてから、今まで学んできた、社会人としての経験・体験を後世に伝える世代

村内の事例

＜社会福祉協議会 サマーチャレンジボランティア＞



中高学生のボランティア参加
(中学生99名・高校生10名が参加)





異世代交流



喬木村社会教育の課題

- 現役世代をどうやってイベントや構成メンバーに引き込んでいくか。(イベントへの参加は退職後の方や子どもが多く、**現役世代の参加が少ない。**)
- **新しい生活様式の中で、社会教育委員として新たな取り組み(仕掛づくり)を考えていく必要がある。**
- 地域づくりといった幅広い活動の中で、どこを「**核**」として取り組んでいけばいいのか。
- 社会教育委員としての**役割を果たせているか。**



最後に

コロナ前には、年に一度、社会教育委員OB、教育委員を交え、それぞれが手作り料理を持参し、食事会を行い、お酒も交え**情報交換を行う**など、とても仲の良い委員会です。

コロナが落ち着いてきた今、またそのような機会を設けることができればと思っています。

